

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会出席者名簿

期 日：令和5年 10月 25日（水）

部会名： 国語 専門部会 会 場： 喜多方市立山都中学校

出席者

【耶麻支部】

【両沼支部】

No.	氏 名	学校名
1	佐久間 光児	山都中
2	小関 英美	山都中
3	神田 和幸	喜多方二中
4	大内 美宙	裏磐梯中
5	鈴木 健太	会北中
6	井上 夏美	喜多方一中
7	木村 綾美	塩川中
8	佐藤 寿広	喜多方三中
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

No.	氏 名	学校名
1	藤井 義朗	湯川中
2	五十嵐 由有	昭和中
3	村松 和弘	三島中
4	星 嘉人	本郷中
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会記録

期 日：令和5年 10月 25日（水）

部会名： 国語 専門部会 会 場： 喜多方市立山都中学校

司会者： 佐藤 寿広（喜多方三中） 記録者： 五十嵐 由有（昭和中）

指導助言者： 荒川 真彦 様（福島県教育庁会津教育事務所 指導主事）

※できるだけ簡略化すること

1 開会の言葉
2 部長あいさつ
3 指導助言者紹介
4 研究協議
(1) 授業者自評
・意欲がなかなかわきにくい生徒に対し、立場を選ばせることで自分の考えを持たせられるようにした。
・前時の活動を踏まえてより高度な課題にしたが、全員がワークシートに書き込み発言することができた。
(2) 質疑応答・(3) 協議
・対比選択の軸の設定について
・考えるために提供する情報の量について
・ICTの利用について

(4) ご指導 福島県教育庁会津教育事務所 指導主事 荒川 真彦 様

・授業者の子どもたちへの「国語を楽しんで学んでほしい」という思いにあふれていたからこそ、本時のような子どもたちの姿があったのだろう。

・単元で構想することの重要性

・全国学調等でも「教科書本文+資料」がスタンダードである。「資料」として何をどう持ってくるかが、重要であり教師の楽しみ。

・PISA型読解力をつけるためには、発問や課題の工夫が必要である。

・活用力育成シートの解説が、評価についての資料となる。

・「個別最適化」は下位生徒だけでなく、中位や上位の生徒にも必要である。喜多方市の取り組み（学びの共同体の考え方）はまさにマッチしている。

・学力調査等の結果分析は、「なぜ、そのような誤答が多くなったのか」を。

#### 4 報告事項

##### (1) 県中教研いわき大会報告

・耶麻・両沼支部の発表内容について

・他支部の発表の紹介（東西しらかわ支部）

#### 5 その他

##### (1) 令和5年度国語部会計について

##### (2) その他

#### 7 閉会の言葉

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会反省記録

期 日：令和5年 10月 25日（水）

部会名： 国語 専門部会 出席者数：12人（耶麻：8 両沼：4）

1. 日程について

問題なし

2. 研究協議について

授業参観及び協議、県大会報告

3. 専門部会運営について

問題なし

4. 次年度に向けての要望

二次研に直接関係ないが、総会や主題研報告、一次研について会の持ち方や会場選定についてご検討願います。

5. 次年度、耶麻・両沼支部統合した際、各専門部会の活動（英語弁論大会、音楽祭、造形作品審査会等）で懸念される事項

特になし

6. その他

特になし

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会出席者名簿

期 日：令和5年10月25日（水）

部会名： 社会科 専門部会 会 場： 新鶴 中学校

出席者

【耶麻支部】

No.	氏 名	学校名
1	鈴木 憲	裏磐梯中
2	須田 夏子	塩川中
3	本多 康夫	塩川中
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

【両沼支部】

No.	氏 名	学校名
1	齋藤 真琴	昭和中
2	風間 達則	会津柳津学園中
3	幕田 秀明	会津柳津学園中
4	須田 剛広	新鶴中
5	小島 奈緒	本郷中
6	真壁 剛司	高田中
7	本多 康弘	新鶴中
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		



令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会反省記録

期 日：令和5年10月25日（水）

部会名： 社会科 専門部会 出席者数： 10 人

1. 日程について

特にありません。

2. 研究協議について

特にありません。

3. 専門部会運営について

北会津支部での授業研究会参加も検討したい。  
外部人材の活用を検討したい。（博物館職員等）

4. 次年度に向けての要望

特にありません。

5. 次年度、耶麻・両沼支部統合した際、各専門部会の活動（英語弁論大会、音楽祭、造形作品審査会 等）で懸念される事項

特にありません。

6. その他

特にありません。

耶麻・両沼中教研 二次研

・10月25日(水)

・数学専門部会

・会場:本郷中学校

### 【 受付名簿 】

\* 出欠欄に○印をお願いします。

学校名	氏 名	2 学年	3 学年	出欠
喜多方一中	板 橋 和 典	-	-	×
	落 合 伸一郎	●		○
	小笠原 優		●	○
喜多方二中	佐 藤 哲 也		●	×
喜多方三中	五十嵐 清 人	-	-	○
	兼 子 光 了		●	○
	齋 藤 香緒里	●		○
会北中	齋 藤 哲 郎	-	-	×
塩川中	宇 川 純 子		●	○
	曾 根 幹 二	●		×
裏磐梯中	小 野 雄 斗	●		○
西会津中	二 瓶 孝 弘	-	-	×
	一 条 勇 輔	●		○
坂下中	小野寺 華緒里		●	○
	金 道 律		●	○
会津柳津学園中	高 橋 哲 郎	-	-	○
	坂 内 秀 徳		●	○
本郷中	小 関 英 紀	-	-	○
	真 部 泰		●	○
新鶴中	山 口 智	●		○
三島中	菅 野 直 幸		●	×
	古 川 麗 香	●		○
金山中	永 山 雄 大	●		○

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会記録

期 日：令和5年 10月25日(水)

部会名：数学 専門部会 会 場：会津美里町立本郷 中学校

司会者：坂内秀徳 (柳津中) 記録者：小野寺華緒里 (坂下中)

指導助言者：塚原直樹 様 (会津教育事務所 指導主事)

※できるだけ簡略化すること

ND.1

(2) 授業者自評 ... 真部泰 先生 (本郷中)

相似な図形の4時間めの扱い。生徒たちは意欲的に取り組んでいる。導入は課題から入りたかった。2つめの課題が難しかった。ICTと板書の兼ね合いが...ノートにも書かせていかなければならぬと思うのだが、アナログとデジタルのバランスをとる必要がまたまたある。

(3) 質疑

○ ヒントカード2枚の内容について、あまり差がないように思われたのだが？

・ 考える前に答えを2枚からわかってしまうのを防ぐため、

○ 普段からノートは使わないのか？

・ ノートは半分ぐらいつかい、演習はスクールタクトを使っています。

○ 今日提示されたものは、自作ですか？(折り紙の図)

・ パワーpointを使用しました。

○タブレットの持ち帰りについて

- ・本郷中では持ち帰りは×です。喜多市は毎日持ち帰りです。それによるトラブルもあります。(万が一休校になった時のため。)

○「根拠となる事柄」の扱いについて、系統的に指導されてきたのか？

- ・1年次から指導しているが、穴うめを主に行って指導してきた。

○ヒントカードの証明のしかたについて

- ・最初の式で  $=90^\circ$  をいってしまうのもよいのでは。

○できた子たちはどれくらい？ 6人くらい (ヒントカードを用いて)

○穴うめから 完全証明へ 教科書の証明へ戻るタイミングは？

- ・次の時間の後半から

(5) 御指導 — 塚原直樹 先生 (別紙参照)

- ・子どもたちから本時のめあてを出させてほしい。子どもたちは、つぶやいていたので耳をかたむけてほしい。

・「協働的な学び」「探求的な学び」への授業改善を

・チャットGPT ⇒ 学校の価値がより求められていく。

・課題があって子どもたちにどのようなことを考えさせたいかがその授業のめあてにつながっていく。

・「教え合い」→わかっていることの話合い

・「学び合い」→分からないことの話合い

・ 視点を与えることで、人に話したくなるのでは。「自分の  
できたものを人に教えさせて。」= 教え合い。

・ まとめ ⇒ クラス全体で 振り返り ⇒ 個人

・ スクールタクト **共有** 席を移動しなくても他の子の考えが分かる

・ ICTは思考のツールとして用いると学力が伸びる

(生徒に学びとらせる) 教師のコーディネートは欠かせない。

(6) 県大会報告 - 小笠原先生(喜多一中)、永山先生(金山中)

(別紙参照)

・ 授業について 最初が教師がひたひたにしている

生徒からめあてを出させては? 板書がないのもどう

なのか。みな可ことの難しさについて話題があがった。

・ グーグルチャットなどを使って 他地区の先生の板書  
を共有して 研修を行っている。

・ 生徒が分からない所を写真にとって、それに教師が  
後に答える。

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会反省記録

期 日：令和5年 10月25日(水)

部会名： 数学 専門部会 出席者数： 18 人

1. 日程について

今週、先週末の文化祭が多いので、10月の4週目ではないことを希望したい。

2. 研究協議について

二次研の持ち方については、ローテーションも難しいけど移動を考えると…。授業研究はあな方がよいが、準備に負担がかからないとよい。ICTの活用研修等もやるよとなれば、会員は増えるのでは。ICTの環境も各校で異なるので、研修会は難しいか…。

3. 専門部会運営について

特になし。

4. 次年度に向けての要望

次年度は県大会もあるので、一次研から皆で協力していかないと…。ならないだろう。

5. 次年度、耶麻・両沼支部統合した際、各専門部会の活動（英語弁論大会、音楽祭、造形作品審査会等）で懸念される事項

移動範囲が広がることに伴う旅費に問題はないか。

6. その他

特になし

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会出席者名簿

期 日：令和5年 10月 25日（水）

部会名： 理科 専門部会 会 場： 坂下中学校

出席者

【耶麻支部】

No.	氏 名	学校名
1	星 貴之 ✓	高郷
2	穴澤 嘉寛 ✓	喜多方第一
3	吉村 憲治 ✓	喜多方第二
4	善澄 博 ✓	喜多方第三
5	和久井 大輝 ✓	塩川
6	河原田 公輝 ✓	山都
7	平佐田 健太 ✓	高郷
8	<del>欠 渡邊 あおば</del>	<del>北塩原第一</del>
9	<del>欠 森 智哉</del> ✓	<del>裏磐梯</del>
10		
11		
12		
13		
14		
15		

【両沼支部】

No.	氏 名	学校名
1	鶴水 達也 ✓	三島
2	菅原 美保 ✓	坂下
3	原田 聡 ✓	会津柳津学園
4	佐藤 賢哉 ✓	三島
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会記録

期 日：令和5年 10月 25日（水）

部会名：理科 専門部会

会 場：坂下 中学校

司会者：善澄 博（喜三中）

記録者：菅原 美保（坂下中）

指導助言者：（ ）

※できるだけ簡略化すること

2. 部長あいさつ

生徒に戻っていく研修にすることが大切。授業に生かせるように。

3. 協議

(1) 県大会報告

1分野 吉村 憲治先生（喜三中） … 別紙資料

2分野 原田 聡先生（柳学中） … 別紙資料

(2) 質疑応答

善澄① <sup>喜三中の研究授業</sup> ジグソー班での調べ学習は教科書の範囲か？

原田① 基本的に教科書を使い、先生が図などを提示した。

星校長① ICTは使っていたか？

原田① <sup>使うのは</sup> 自由で、その中で発表のしかたを工夫していた。

星校長① ネットで調べることにどこに限度を設けるかが大切。

吉村① エネルギーを大切に使うには？ → 発電方法の調べ学習

→ 日本はどの発電がよいかという流れ。（これは今回の授業）

穴澤① 教師はどの程度話していたか、

原田① 先生方は班の活動にはかかわっていたが、ほとんど話していなかった。協議で出たのは、まとめはもう少し書く活動をしてみようかというのではなかったのではないかと。

吉村① はじめ、ふり返りと先生から、さくら補足の説明をして...のみだった。

穴澤① 研究授業の時間までに至る過程の授業の方が参考になったのではないかと。

星校長① 副主題を達成するためにどうすればいいか。～とすれば～なので～の力加つく、という考え方に基盤で実践したのではないかと。批判は予想をきいて...

原田① 酸素の流れを見る。「酸素」という視点と「酸素」を入れて調べていた。

#### 4 教材研究

- ・ デジタル生物顕微鏡
- ・ Iot 百葉箱
- ・ サイレス Web センサー
- ・ コンパクトな電源装置
- ・ イカ、アサリ 模型

星校長先生より

中教研を勉強の場として活用できるように、若い先生にも声をかけて、来年も活動していきたい。

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会反省記録

期 日：令和5年 10月 25日（水）

部会名： 理科 専門部会 出席者数： 11 人

1. 日程について

良好

2. 研究協議について

県大会の内容の伝達を済ませた。

3. 専門部会運営について

両支部を協力して行った。

4. 次年度に向けての要望

特になし

5. 次年度、耶麻・両沼支部統合した際、各専門部会の活動（英語弁論大会、音楽祭、造形作品審査会 等）で懸念される事項

専門部会等

県大会参加者の選出方法を

6. その他

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会出席者名簿

期 日：令和5年10月25日（水）

部会名： 音 楽 専門部会 会 場：高 田 中 学 校

出席者

【耶麻支部】

No.	氏 名	学校名
1	佐藤 容子	喜多方一中
2	横田 美代	塩川中
3	花泉 恵理	喜多方三中
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

【両沼支部】

No.	氏 名	学校名
1	小寺 真紀	昭和中
2	新田 喜恵	本郷中
3	小野佑里絵	高田中
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会記録

期 日：令和5年 10月 25日 (水)

部会名： 音楽 専門部会 会 場： 高田 中学校

司会者： 佐藤先生 (喜一中) 記録者： 花泉 (喜三中)

指導助言者： \_\_\_\_\_ ( )

※できるだけ簡略化すること

### 県大会報告

。ICTの活用について 支部によってまちまち。

美里町 スクールタクト 生徒にネタハルしてしまう。事前に見えない制限。

授業ではアナログの良さも活かす。

作曲者の意図とのリンク

生徒による絵 モノクロ絵にカラーをぬる。

オンライン をで他の先生もみられるようにするとよい。

質疑問答とその焦点化。

### 4. 次年度への要望

5. 総会から耶麻・両沼合同にしてほしい。

音楽祭 → 中教研主催になる。運営にあたって人足が足りない。

非常勤の先生も招かしてもらえようようにしたい。旅費の問題等

第3部創作 以切を早くしてほしい、指導時間の確保。

県音研事務局長と県会長に報告済  
なお 第二回理事会で要望として報告する。

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会反省記録

期 日：令和5年10月25日（水）

部会名： 音 楽 専 門 部 会 出席者数： 6 人

1 日程について

○文化祭開催を考えると、もう1週間早くてもよいと考える

2 研究協議について

○特に問題はない

むしろ、半年過ぎて、それぞれの実践や業務について相談し合いができるので良い期間と捉えている。

3 専門部会運営について

○耶麻10校、両沼9校でありながら、6校（6人）では、中教研の研修にはぎりぎり限界があると考ええる。

○1次研で両支部の顔合わせができるが、できれば総会から顔合わせができないだろうか。

○次年度以降、早々に音楽部会では、全会津合同開催を望む。

4 次年度に向けての要望

○1次研で両支部の顔合わせはできるが、できれば最初に行われる総会から合同でできないだろうか。その方が、研究の方針や年度内の取り組みの確認が窓口1本かで取り組みやすくなると思う。

○次年度以降、早々にこの音楽部会を、全会津合同開催で取り組めることを望む。

5 次年度、耶麻・両沼支部統合した際、各専門部会の活動（英語弁論大会、音楽祭、造形作品審査会等）で懸念される事項

○次年度の耶麻両沼合同音楽祭が中教研主催で開催することが決定したが、その際の係・役員がどうやって集めたらよいか難しいと考える。（小学校からの大会参加がないため、小学校からの係・役員参集はできないが根拠）

※中教研6人では、音楽祭は回せない。

・各校基本的に1名（指揮者がいる際は、指揮者以外で1名）また、中学校は、兼務されている方がいるので、その際でも1名招集する。

・小学校へは、係依頼をかける。旅費は、県費申請。ただし、準備会の旅費は、それぞれの中教研から捻出するとなると、小学校の旅費はどこから捻出すればよいか。

・次年度、小学校から参加希望があった際は、係・役員を招集できるか・

・地区学校全体で開催に協力いただきたいが、様々な理由で断られる可能性が高い。

→と考えると、全会津開催の方が取り組みやすくなるのではないかと考える。

そのため、音楽祭については、今後全会津開催を希望する。そのため、北会津地区・耶麻地区・両沼地区との協議会を開催する必要があると考えるが、どのルートから攻めるのがよいかわからない。

→現)合奏祭のみ全会津開催 合唱は會津風雅堂、合奏は喜多方プラザで開催できることが望ましいと考える。

○地区創作祭についても耶麻地区との合同開催を望む。

6 その他

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会出席者名簿

期 日：令和5年 10月 17日（火）

部会名： 美術 専門部会 会 場：会津若松市立第四 中学校

出席者

【耶麻支部】

No.	氏 名	学校名
1	岩下 千恵	喜多方一中
2	須田 磨美	喜多方二中
3	遠藤 学	裏磐梯中
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

【両沼支部】

No.	氏 名	学校名
1	五十嵐 章	坂下中
2	庄司 美保	高田中
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会記録

期 日：令和5年 10月 17日（火）

部会名： 美術 専門部会 会 場： 会津若松市立第四 中学校

司会者： 山口 功（河東学園） 記録者： 長谷川裕美（若松三中）

指導助言者： なし（ ）

※できるだけ簡略化すること

北会津支部・耶麻支部・両沼支部・南会津支部の4支部合同で実施した。
日程については、北会津支部の予定に他の支部が合わせる形で10/17（火）と
なった。1次研のときから、すでに日程が提示されていたため、大きな支障なく参集
することができた。
13：20 開会
版画家 五十嵐 恵太 先生 をお招きして、実技指導をいただいた。実技内容は
「キッチンリトグラフ」で、キッチンにあるものを使って版画をするという内容だった。
例えば、チョコレートの油分を使って字を書き、コーラでその油分と化学反応させて
版画のベースを作成するというものだった。参加者は、今まで経験したことのない内容
に楽しみと不思議さを感じながら有意義に活動していた。
15：20 県大会報告（若松三中 長谷川裕美先生・喜多方一中 岩下 千恵先生・
高田中 庄司 美保先生）
長谷川先生を中心に、中教研県大会（いわき市立草野中学校）の報告を
した。また、次年度の副主題と授業との関連のさせ方について話し合いを
行った。

16:00 各支部で今後の予定を詳細に話し合った。特に造形作品審査会については、各支部とも人数が少ない中で実施しなければならないため、綿密に話し合いが行われた。

16:30 閉会

# 令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会反省記録

期 日：令和5年 10月 17日（火）

部会名： 美術 専門部会 出席者数： 17 人

## 1. 日程について

4支部合同での実施のため、どこかの支部の実施時期に合わせなければならない。今回は北会津支部に合わせたが、参加人数等も考慮すれば妥当だと考える。

## 2. 研究協議について

美術専門の教員が多数集まるため、主題・副主題をもとにした授業づくりについて非常に専門的な話し合いが行われた。

## 3. 専門部会運営について

北会津支部長にはほぼお任せしてしまったが、4支部のそれぞれの部長同士で連絡を取り合い、会がスムーズに運営できるように準備することができた。

## 4. 次年度に向けての要望

おそらく次年度も支部ごとだと人数が少ないことが予想されることから、今年度と同様に他の支部と合同で実施することにより、教員のスキルアップにつながると考える。

## 5. 次年度、耶麻・両沼支部統合した際、各専門部会の活動（英語弁論大会、音楽祭、造形作品審査会等）で懸念される事項

「造形作品審査会」について、現在、耶麻支部と両沼支部で実施方法が異なるため、年度当初に話し合いが必要である。

統合しても、教科の特性上、会員が大幅に増えるわけではないので、主題研や県大会等への参加が毎年同じメンバーになってしまう可能性があるため、ローテーションにする等工夫が必要である。

## 6. その他

美術部会の運営上、現在の予算ではやや不足する可能性があるため、次年度は2,000～3,000円程度上乘せして予算を組みたい。

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会出席者名簿

期 日：令和5年 10 月 25 日 ( ) ( )

部会名： 保健体育 専門部会

会 場： 坂下 中学校

出席者

【耶麻支部】

【両沼支部】

No.	氏 名	学校名
1	馬場 亮太	会北中
2	記野 友晴	坂下中
3	小椋 祐希実	昭和中
4	河西 孝浩	塩川中
5	小野里 武	喜多方中
6	渡部 泰子	〃
7	笹 康頼	高須中
8	塩川 健二	西会津中
9	佐久間 唯	北一中
10	長峰 悠真	山都中
11	目黒 彩奈	喜一中
12	佐藤 大志	喜三中
13	古川 貴仁	裏磐梯中
14	斎藤 一範	〃
15		

No.	氏 名	学校名
1	五十嵐 真由美	坂下中
2		
3		
4	仙波 修哉	金山中
5	古川 三枝子	新鶴中
6	高橋 主税	坂下中
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会記録

期 日：令和5年 10 月 25 日 (水)

部会名： 保健体育 専門部会 会 場：坂下 中学校

司会者：仙波 (金山中) 記録者：古川 (新鷺中)

指導助言者： \_\_\_\_\_ ( )

※できるだけ簡略化すること

1. 開会のとほ

2. 部長あいさつ 五十嵐校長先生(坂下中)

・インフルエンザが心配なとう

・新人戦 → 県大会

・中教研 → 来年度に向けて、今年度できること...

3. 協議

(1) 県中教研への大会報告... 別紙参照

耶麻支部 馬場亮太(金山中)

・相双... ルーブリック → 達成度の提示

・ICT活用... 福大附属中

両沼支部 記野友晴(坂下中)

・苦手な生徒をメロにした授業づくり

↳ サブなし・レシーブ(はじく)でアウトをキャッチする

↳ 次の動きが明確にするため

・ICTの活用…グループ2人づつ利用

小グループからグループへの話し合い

・授業者…1年生から見ている。→計画性がある。

Q 3年生のバレーではボールをキャッチを入れるのはどうか？

A 苦手の生徒をすくうというのを考えるとOKという考え

Q 3年生としての評価としてはどうか？

特別支援<sup>→6名</sup>が入ってきている学級…めづるにない感じに授業

Q 技能の評価、估方が難しいのではなか？

<<次年度に向けて>>

・令和6年度は保健の内容。

・令和7年度以降は4年ごととする。

(2) 生徒のけが防止に向けた実技講習会

小野里 武先生 柔道

受け身 → 身体の安全を高める方法を熟知すること、体得

① 頭を守る ② 内臓を守る ③ 手足の機能を守る

④ 身体を守る

笠 康頼先生 剣道

礼法 → 所作はそれぞれの武道での発展、理由がある。

日常生活における礼法について

(3) 授業におけるICTの活用について

- ◎ 基本コース 機器の接続、基本的な操作の仕方
- ◎ 内容コース 活用している動画再生方法やワークシート等の情報交換

4. その他

5. 閉会の言葉

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会反省記録

期 日：令和5年10月25日（水）

部会名： 保健体育 専門部会 出席者数： 18 人

1. 日程について

良好（多数）

文化祭が近い学校は少し負担感があるかもしれない。

2. 研究協議について

授業で活かせる有意義な内容だった。（多数） ICT 活用の時間をもっと取りたかった。専門的な内容が深まった。他種目についても上達のポイントなどを情報交換したい。耶麻・両沼で共有フォルダを作成して、ワークシートなどを共有したい。

3. 専門部会運営について

県の報告では各支部の研究を知るきっかけがあって良い。

とてもスムーズな運営だった。幅広く意見交換できる雰囲気だった。（多数）

4. 次年度に向けての要望

タブレットの活用を深めたい。評価の仕方について研究したい。

県大会の報告は、協議会の様子を動画で撮っておくと後から見られる。

今年度のように情報交換、講習会を実施してほしい。（多数）

県大会参加者は、耶麻・両沼で1名にする。

5. 次年度、耶麻・両沼支部統合した際、各専門部会の活動（英語弁論大会、音楽祭、造形作品審査会 等）で懸念される事項

特になし

6. その他

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会出席者名簿

期 日：令和5年10月25日（水）

部会名： 技術家庭専門部会 会 場： 湯川村立湯川中学校

出席者

【耶麻支部】

No.	氏 名	学校名
1	佐藤 純一	会北中
2	佐瀬 千恵	高郷中
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

【両沼支部】

No.	氏 名	学校名
1	橘 健一	湯川中
2	北見 清	金山中
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会記録

期 日：令和5年 10月 25日 (水)

部会名：技術・家庭科 専門部会

会 場：湯川村立湯川 中学校

司会者：北見 清 (金山 中)

記録者：佐藤 純一 (会北 中)

指導助言者：なし ( )

※できるだけ簡略化すること

<技術分野> (開会前長あいの後)

1. 県大会報告

※県大会部会要項に基づき報告

・生徒学習訓練

・ICT (タブレット) 使用 生徒大々使われている

・バネ池 ICT 支援員月6回 (向かい合わせ)

学校勤務 (機器フル活用)

・教室前のスクリーン活用

金山

70分程度 70分程度

3年 情報のみ

70分程度 70分程度

2年 生物作成と交換

40分程度 (2人) 30分程度 (2人)

1年 材料の加工と技術

フル活用

## 〈家庭分野〉

県大会報告 家庭 消費生活・環境

- ICTの活用も上手であった。
- 「ネットからサポートする支援員人材」に対応していた。
- 機器のトラブルもなくスムーズだった。
- 2年生の授業。～ 修学旅行のリユース編～
- 高齢者とのかわり → 深くまで学習しておく。ぶらゆる程度
- 北会津支部 → 郷土料理 と 行事食はちがう。和食についてぶらゆる。
- 伊達支部 → SDGs. 理想の生活と現在の生活の課題を明確に
- 家庭科の指導案の書き方
- 衣服生活と消費生活とリンクさせている。
- 衣服 → リメイクさせることに 意味があるので。それを考えさせる
- 手ぬい は 手ぬい ミシンは ミシンで 基本を確認させる
- ICTの活用
- ハンバーグの作り方
- ちまみを使った、野外活動の実施

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会反省記録

期 日：令和5年 10月25日(㊥)

部会名：技術・家庭科 専門部会

出席者数：4人

1. 日程について

通りである

2. 研究協議について

〃

3. 専門部会運営について

・適宜、技術と家庭科で別々に協議する

4. 次年度に向けての要望

- ・今年度は同様
- ・一次研、他の支部と合同(金津とい実施)でできる方がいい。
- ・オンラインでの対面でのほうがいい。

5. 次年度、耶麻・両沼支部統合した際、各専門部会の活動(英語弁論大会、音楽祭、造形作品審査会等)で懸念される事項

・物の不足

6. その他

・特になし

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会出席者名簿

期 日：令和5年 (0月 25日 (水))

部会名： 英語 専門部会 会 場： 高田 中学校

出席者

【耶麻支部】

【両沼支部】

No.	氏 名	学校名
1	新田 司	山都中
2	笹川 淳子	喜多方一中
3	小田切 緑子	北塩原一中
4	佐藤 法子	喜二中
5	佐藤 健一	喜三中
6	内海 淳	百会津
7	清野 博史	塩川中
8	鈴木 雅彦	北塩原一中
9	田中 大	夏野中 ←
10		
11		
12		
13		
14		
15		

No.	氏 名	学校名
1	星 佳子	高田中
2	齋藤 文菜	"
3	星 邦章	昭和中
4	<del>新田 司</del>	<del>山都中</del>
5	<del>長瀬 裕斗</del>	<del>田中大</del>
6	渡部 麻子	湯川中
7	佐藤 理恵子	坂下中
8	小柴 辰之	三島中
9	阿部 則代	坂下中
10	鈴木 智子	"
11	永井 靖子	本郷中
12		
13		
14		
15		

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会記録

期 日：令和5年 10月 25日（水）

部会名：耶麻・両沼中教研英語専門部会 会 場：高田 中学校

司会者：鈴木智子（坂下中） 記録者：齋藤文菜（高田中）

指導助言者：指導主事 木村真様（会津教育事務所）

※できるだけ簡略化すること

県大会の報告と協す
・両沼支部 高田中学校 星佳子先生
伊達支部の発表
支部としての3つの視点を中心に取組んでいた
(1) 学習課題頁の設定
(2) 中間指導の充実
(3) 継続的な活働力の実施
岩瀬支部の発表
支部として2つの視点をもとに取組んでいた。
(1) 実践的な言語活動の充実
(2) 表現力を高める指導の工夫
共同学習の充実、単元のテーマを使い3~4人で学習等
協議で多く話題頁に上がったことは、タブレットの使用について
翻訳などのアプリの使い方について学びがかった。

授業 2学年 Unit5 Universal Design

課題把握、オクリフの使用、導入のクオリティーの高さ、

継続した中間指導のあり方、生徒の反応が大変素晴らしい。

言語活動もスムーズであった。

耶麻支部代表 西会津中学校 内海淳先生

石川支部の発表

支部と3つの視点をもとに取り組んでいた、中でもそれぞれの

場面の設定に工夫が見られた。

研究実践'では、One Page Portfolio (OPP) の使用、

授業の終末には振り返りを行い、次につなげる。

中間指導の充実、教師側の説明が多くなりたふいよに等

学習者同士の教え合いの充実、表現力を高める指導の思慮可。

授業 3学年 Unit5

課題把握でカードやALTからのメッセージ(活動の場面か

しかり設定されていた。)

課題の追求もグループごとに活動するために準備が

きちんとされていた。言語活動に生徒の関心があるような内容の

工夫があった。生徒が主体的に学習できていた。教師もほぼオール

イングリッシュであった。

質疑応答・協議

中間指導の具体的な内容を教えほしい。

準備されていたワークシートの内容に対する助力。

和シティブな声かけやアドバイス等をしていた。(2学年)

文法が難しいため、再度説明を加えたり、例を示したり。

生徒相互で英文を読み合わせたりしていた。(3学年)

中間指導のありがた(木村先生より) 生徒のやる気を引き出すための  
モデル、負荷を与える。

生徒の良い例、モデルの共有、つまづきを取り上げるとどこが間違っているのかを全体で共有、考えさせる、言いたくても言えなかった表現の

確認、教師が説明する、うまく言えない、発音の確認などの

練習時間の確保、翻訳アプリの使用についても使い方に

よっては役に立つ、文章ではなく単語のみに使用する等。

相手に伝わる英語であるかの確認が必要

次年度の取り組みについて

副主査員について、言語活働力の評価の一体化のための工夫

Assessment for learning 学ぶための評価で生徒の

成長を面と糸泉で捉えてほしい。

講義(木村真先生)

ICTによる授業の進め方とデジタル教科書の効果的な活用に

ついて 別紙参照

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会反省記録

期 日：令和5年 10 月 25 日（水）

部会名： 英語 専門部会 出席者数： 18 人

1. 日程について

特になし

2. 研究協議について

県大会の報告と講義において学びを深めることができた。

3. 専門部会運営について

特になし

4. 次年度に向けての要望

両沼支部 ... 会場をじげんプラザを使用したいが...

5. 次年度、耶麻・両沼支部統合した際、各専門部会の活動（英語弁論大会、音楽祭、造形作品審査会 等）で懸念される事項

6. その他

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会出席者名簿

期 日：令和5年10月25日（水）

部会名：            道德            専門部会                      会 場：会津坂下町立坂下中学校

出席者

【耶麻支部】

No.	氏 名	学校名
1	園部 毅	西会津中
2	目黒 奈津子	喜多方一中
3	齋藤 英子	塩川中
4	佐藤 幸枝	会北中
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

【両沼支部】

No.	氏 名	学校名
1	川島 淳	本郷中
2	小坂 ひろみ	会津柳津学園中
3	西田 さおり	坂下中
4	鈴木 里奈	金山中
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会記録

期 日：令和5年10月25日（水）

部会名：  道徳 専門部会  会 場：  会津坂下町立坂下 中学校

司会者：  小坂ひろみ (会津柳津学園中)  記録者：  西田さおり (坂下中)

指導助言者：  なし ( )

※できるだけ簡略化すること

1. 県大会報告 ... 鈴木里奈先生 (金山中) ... 別紙参照

① 両沼支部資料説明

・ テキストマイニングを使用した授業が多々みられた。等 ... "

② いわき大会での内容 ... 別紙参照

・ プランニングシート 振り返りを想定しながら、中心発問へ (下から上へ)

・ 学級経営が基本。

質疑応答

・ 相双支部の哲学対話方式について ... ボールを持った人が語る。(円)

問いを納得いくまで話し合う。

・ 授業について 建前から本音に迫らせる工夫はあるのか。

... 生徒のまよやきを実践で捨てることかできていなかった。→事後でも話ができた。

・ 北会津地区 ... 指導

・ 終末は感想をかかせているか。共有しているか。 → 資水色 P.20.4④

・ 匿名で掲示 ・ 感想を発表 (数名) ・ 振り返りシート 教師がみる。

・ +1 でかかせていることを共有。

・ 資水色 P.20<sup>4</sup>④ について説明。授業の反省 教師の振り返りができる。

## 2. アーカイブ授業視聴による研修

(1) 視聴: 言葉の向うに(2年) → 福島県では3年の内容.

自分事として考えさせる授業.

(2) 授業の感想.

○ 小坂T 4月に同じ授業(保護者授業参観で)した。SNSについて考えさせること中心に

心情メーター形態について.

○ 凹の字型、1人1人の心情メーター.

発問多く、中心発問が分かりにくい。パネルディスカッション、残りの人は見ているだけで

班ごとによろ。その後代表でよろはどうか。

○ 内容理解... 相互理解 あらびアンケートもていませるか上手.

発言をしている人が決まっていた。心情メーター作り.

○ パネルディスカッション、2対2。エリートだけではためではないか。

SNSの方向に向ける資料.

○ パネルディスカッション → 班にすれば、金山でも生かせるのでは。

この字の形態の良さは何だ、何なのか? ... 顔がみれり、生徒同士.

○ 教師がコーディネーター。教師が話していることが多い。

○ 課題を始めたかいていいのか。 → ずいといかたいいから。

アーカイブで行くと、本音が話できる。

2年の授業で  
○ 社会貢献... どれでもいいから。(本音) ひろくし収集はどうか。

→ 子どものつばやき、捨てる時と、それではない時と...。うけをねらう生徒いる。

### 3. その他.

#### (1) 今年度の反省.

、 日程について、<sup>(修学旅行)</sup>文化祭の準備がある学校も.

、 アカイブ授業よかった。(二次研の持ちえ) 外部講師 ICT スクール外もよいのでは?

#### (2) 次年度研究等について.

、 人数が少ないので合同がよい。場所は、次年度は、どの教科も合同でと?

# 令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会反省記録

期 日：令和5年10月25日（水）

部会名：  道徳   専門部会  出席者数：  8  人

## 1. 日程について

- ・学校によっては文化祭が当週というところもありますが、仕方ないかと思えます。

## 2. 研究協議について

- ・アーカイブ視聴の形式をとりましたが、先生方が授業に対して本音で意見を出し合い協議をすることができてよかったです。

## 3. 専門部会運営について

- ・特にありません。

## 4. 次年度に向けての要望

- ・特にありません。

## 5. 次年度、耶麻・両沼支部統合した際、各専門部会の活動（英語弁論大会、音楽祭、造形作品審査会 等）で懸念される事項

- ・広域になるため、総会、主題研、一次研を含めて会場校の場所。

## 6. その他

- ・ありません。

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会出席者名簿

期 日：令和5年 10月 25日(水)

部会名： 耶麻 専門部会 会 場：塩川 中学校  
 特別活動

出席者

【耶麻支部】

No.	氏 名	学校名
1	佐瀬大地	西会津
2	柳沼 脩	喜多方一中
3	長谷川 詩織	高郷中
4	坂井 裕美子	喜多方三中
5	真田 萌花	喜多方二中
6	平井 正巳	塩川中
7	田代 茂	塩川中
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

【両沼支部】

No.	氏 名	学校名
1	野口 幸哉	金山中
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会記録

期 日：令和5年 10月 25日（水）

部会名： 特別活動 専門部会 会 場： 喜多方市立塩川 中学校

司会者： 平井 正巳（塩川中） 記録者： 柳沼 勝（喜多方一中）

指導助言者： \_\_\_\_\_（ \_\_\_\_\_ ）

※できるだけ簡略化すること

1. 開会の言葉

2. 部長あいさつ（野口幸哉先生）

- ・ 県中教研を受けて
- ・ 令和6年度から耶麻・両沼合同での開催になる。  
そこに向けての意見・引継ぎがあれば出してもらいたい。

3. 研究協議

（1）県大会の報告（西会津中佐瀬先生）

◎県大会資料を受けて

- ・ 集団とは⇒生徒会本部、生徒会専門部、学年集団、学級集団などさまざまであった。
- ・ 参画しやすい環境づくり⇒「集団の雰囲気づくり」に向けた取り組み多数あった。
  - ①「自己開示しやすい」集団作り⇒3-3 東和中学校の取り組み
  - ②エンカウンター：アドジャン ⇒3-2 二本松一中の取り組み
- ・ 課題を解決する⇒どんな「課題」があるのか
  - ①学級力アンケートの実施、チャート作成⇒本宮二中
  - ②学校としての「課題」⇒いじめ、体力育成、SDGs、校則の見直しなど  
その中で「校則の見直し」が盛り上がった。
- ・ 話し合いの時間が確保できない⇒ICTの活用で負担が少なく活動できる
- ・ リーダーの育成⇒強いリーダーがいればよいわけではない（やらされる集団になる）  
⇒フォロワーの育成が重要。様々なリーダーがいる集団作りを。（しなやかな集団になる）

◎県大会授業を受けて（2年生：発表会の準備の時間）

- ・ 研修旅行のまとめを発表する前時の授業
  - ①2組が1セットで、互いの発表を見る
  - ②KJ法にて「よいところ」「改善点」をまとめる
- ・ 「普段、一緒に行動しない級友のよいところが見つかった」という生徒の反省

⇒指導者側の意図が感じられたコメントであった。

## (2) 質疑応答

①塩川中平井先生：「学級力アンケート」は喜多方でも10年くらい前から重点事項に上がっていた。

例年なかなか取り組まれていないのではないか。

⇒喜多方一中は2年前に実施した。どの学級も同じような形になり、課題が見えにくかった。

喜多方でも浸透していないので、もう一度見直すこともよいのかもしれない。

②塩川中平井先生：意見交換の場面で、質の向上を求めている練り上げがあればよかったのではないか。

⇒今回は「自己開示」「集団作り」を目標とした授業であったため、他者への声掛けのあり方に視点があてられた。

総合に近い内容ではあったが、特別活動の「学級づくり」という視点で問題ない。

③喜一中柳沼：2組の活動が興味深かった。

⇒生徒の見る視点がバラバラだったため、話し合いの深まりまではいかなかった。

「視点を明確にする」「ICTを活用する」などの工夫があれば、更に内容の濃い話し合いになったのかもしれない。

④金山中野口先生：KJ法をあえて紙で実施したことの理由について、自評の中で発表があったか？

⇒特になかった。授業者は「紙で実施してよかった」というコメントであった。

## (3) その他

### ①今年度の反省と課題

・日程について：令和6年度耶麻・両沼合同開催だと、開始時間を考慮してほしい。

各教科で日程をばらす案もあり。11月1週目くらいだと文化祭に影響ないか。

### ②会計より

## (4) 閉会の言葉

---

期 日：令和5年 10月 25日（水）

部会名：特別活動 専門部会 出席者数：8人

1. 日程について

他の専門部会の開始時刻が早くて、学校側が大変に困る。  
授業研究をやる場合は6校時に設定してもらえるとよいと思う。

2. 研究協議について

良かったぞ。

3. 専門部会運営について

特になし

4. 次年度に向けての要望

各部会を同一日ではなく、一週間くらいの期間を設けて1日に  
2～3部会であるならば「学校としても対応が楽である。11月上旬  
であれば、文化祭も三者面談、期末テストもふうからないのではないか、

5. 次年度、耶麻・両沼支部統合した際、各専門部会の活動（英語弁論大会、音楽祭、造形  
作品審査会 等）で懸念される事項

生徒会交歓会は、本年同様に耶麻地区で開催し、両沼  
の各校に参加を募る形にするのがよいと思う。web開催なので場所の心配はない。

6. その他

特になし

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会出席者名簿

期 日：令和5年 10月 25日 (水)

部会名：           養護教員部会                      会 場：           坂下中学校          

出席者

【耶麻支部】

No.	氏 名	学校名
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

【両沼支部】

No.	氏 名	学校名
1	佐藤 祐二	高田中学校
2	吉津 未央	坂下中学校
3	丹 絵利子	柳津学園中学校
4	星 美幸	高田中学校
5	薄 奈保美	本郷中学校
6	菊地 彩	金山中学校
7	児島 彩香	湯川中学校
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		



# 令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会反省記録

期 日：令和5年 10月 25日（水）

部会名：           養護教員部会                     出席者数：           7人          

## 1. 日程について

- ・一次研・二次研ともに、開催時期よい。
- ・一次研の時間は、1日または半日か検討が必要。

## 2. 研究協議について

- ・とてもよい内容であった。
- ・一次研で講師を二人選定するのが大変であった。

## 3. 専門部会運営について

- ・次年度は、両沼・耶麻合同で開催することが決定している。

## 4. 次年度に向けての要望

- ・次年度の一次研の内容は、4月の総会で決定する。
- ・各自、希望する講義内容や講師の候補をあげられるようにしておく。
- ・二次研では、各校の学校保健活動の実践を共有する。

## 5. 次年度、耶麻・両沼支部統合した際、各専門部会の活動（英語弁論大会、音楽祭、造形作品審査会 等）で懸念される事項

## 6. その他

令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会出席者名簿

期 日：令和5年 10月 25日（水）

部会名： 特別支援教育 専門部会 会 場：会津西陵 高等学校

出席者

【耶麻支部】

No.	氏 名	学校名
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

【両沼支部】

No.	氏 名	学校名
1	鈴木 恵一	坂下中
2	矢澤 柚花	坂下中
3	只木 忍夫	会津柳津学園中
4	江川 優子	高田中
5	仙波 順子	本郷中
6	柳沼美佐子	新鶴中
7	佐藤 智明	新鶴中
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

# 令和5年度耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会記録

期 日： 令和5年10月25日(水)

部会名： 特別支援 専門部会

会場： 会津西陵高等学校

司会者： 江川 優子 (高田中学校)

記録者： 只木 忍夫 (会津柳津学園中学校)

指導助言者： 鈴木 貴之 教頭先生(会津西陵高等学校)

## 1 日程の確認

## 2 校舎内見学・授業参観

- ・定期テスト後の振り返り及び解答(3年) ・文化祭にむけての話合い(1, 2年)

## 3 協議

### (1) 開式の言葉

(2) 部長挨拶・指導助言者紹介 両沼支部部長 佐藤 智明先生 (新鶴中)

(3) 講話 「高等学校における特別支援教育の取り組みの現状について」

鈴木 貴之 教頭先生

### ○会津西陵高等学校の取り組みについて

- ・ 統合2年目となり、落ち着いて過ごしている。例年10人前後転学。人間関係等、通信制へ。後ろ向きな転学ではなく、前向きな変更が多い。
- ・ キャリア指導推進校、学習内容等、幅広いニーズがある。コース分けは2年時より。現在2年生の1組が進学コース。その他の3クラスはバランスをとり編成。進路は、進学・就職(半々)9割は決定。進学は、総合型選抜、推薦が多い。
- ・ 個別支援教育推進(県内9校)。あらゆる支援が必要な生徒への支援。幅広いニーズがある生徒が在籍している。
- ・ 校内において個別支援教育推進委員会が設置。実際、行政なども入り、会議を行ったりしているが、具体的な対策、支援を行うに至っていないのが現状である。
- ・ ネグレクトの生徒、一時保護、児相につなげることができたケースもある。
- ・ 発達障害15名在籍。診断を受けている生徒は、自分で対応できている。診断を受けていない生徒は、見ていると気になる行動などが見られる。
- ・ 会津西陵高等学校の取り組みとして、ロードマップを作成し、段階的に移行できるように取り組んでいる。
- ・ 中学校からの引継ぎを今年度は6月(中間考査の時)に実施した。実施に対して、本校内で意見が分かれた。次年度どうするか。
- ・ 中学校からの特別支援の情報の引継ぎがない。高等学校入学後、高校生活支援シートを生徒+保護者の両方に記入してもらい、4月すぐに情報共有した。
- ・ 個別サポートプラン(A4、1枚)特別支援コーディネーターハンドブック活用、生徒2名のみ作成しているが活用に至っていない。
- ・ ケース会議を行ったことは、全教員に共有させていく。職員会議で生徒の情報を共有している。
- ・ SC(月3~4回)、SSW(必要があれば)は、行政とつながっているので情報を得ることができる。
- ・ 個別支援教育通信の発行(不定期)は、高校の先生たちに特別支援への理解を促す、知ってもらう機会を作る目的で発行している。

- ・ 研修会の実施。LGBT の理解について。
- ・ 特別支援の研修会。特別支援センターに依頼する。
- ・ 特別学習会。「学びの基礎診断」を受けて心配な生徒を対象に。強制ではない。
- ・ 学習支援員の配置(県内14校)。県の予算で配置している。勤務14時まで。勤務日も限られている。もう少し、柔軟にできると。数・理の教科で入っている。自分でわからないと言えない。
- ・ サポートルームの活用。生徒が安心できる居場所を作る。教育委員会が開設。生徒のニーズがあり、作ったわけではない。
- ・ 特別支援の理解を広めていくための取り組みを行っているが、難しい状況がある。
- ・ 高等学校として、高等学校のやり方、プライドもある。特別支援学校ではないという考えの先生もいる。

#### (4) 質疑応答

- ・ 特別な支援が必要な生徒とは？
  - 発達障がいのある生徒を対象に考えているが、それ以外の生徒も含まれる。その為にも、先生たちにユニバーサルな授業を行ってほしいと伝えている。教師自身が自分の授業を振り返ることが必要である。
- ・ 特別な支援への対応として、実施していること
  - 「忘れ物しやすい生徒」LINE のアプリの活用。必要なもの、時間で知らせるなど。注意欠陥障がいがある生徒、上手に活用している。
- ・ 書字障がいの生徒の受験で、若松商業で実施したと聞いたが、どのような方法で実施。
  - 個別の支援計画を作成し、中学校で支援していることが大切である。やっていないことは、合理的な配慮申請できない。また、受験校で対応ができれば実施できるが、申請してみないとわからない。
- ・ 支援が必要な生徒たちの進路はどうなっているか。
  - 知的に心配な生徒。就職が内定した。ニーズがあった。
- ・ 特別支援学級知的学級の生徒は受験したか。
  - 発達障がいの生徒 15 名。知的障がいの生徒はいない。受験することは可能。受験でしっかり点数がとれ、学ぶ意欲があれば。基本的な学習態度が身についているか。自分で考えて行動できているか。指導されていない生徒がいる。

#### (5) 部長挨拶

#### (6) その他

#### (7) 閉式の言葉

### 4 閉会式

・

# 令和5年度 耶麻・両沼中学校教育研究会 第二次研究協議会反省記録

期 日：令和5年 10 月 25 日（水）

部会名： 特別支援教育 専門部会 出席者数： 7 人

## 1. 日程について

- ・他の部会と同日に実施できて良かった。

## 2. 研究協議について

- ・会津西陵高校鈴木貴之教頭先生から、「個別支援教育推進校」として会津西陵高校の取り組みを詳しく教えていただくことができた。ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業作りは支援学級だけでなく、通常学級でも積極的に取り入れていく必要があることを学ぶことができた。
- ・高校見学をすることで、中学校を卒業した生徒たちがどのような環境で学び、進路をどのように決めていったかを見ることができた。

## 3. 専門部会運営について

- ・特にありません

## 4. 次年度に向けての要望

- ・特にありません

## 5. 次年度、耶麻・両沼支部統合した際、各専門部会の活動（英語弁論大会、音楽祭、造形作品審査会 等）で懸念される事項

- ・特にありません。

## 6. その他